

令和5年度（令和4年度分）

教育委員会が行う点検・評価

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に関する点検・評価】

報 告 書

令和5年8月 板橋区教育委員会

目 次

I	点検・評価の目的	2
II	点検・評価の実施方法	
1	点検・評価の対象事業	3
2	学識経験者の知見の活用	8
3	点検・評価実施の流れ	9
4	評価評語及び方向性	10
III	点検・評価の結果	
1	学識経験者の知見の活用対象事業の点検・評価結果概要	11
2	学識経験者の知見の活用対象事業の点検・評価結果詳細	14
3	学識経験者の知見の活用対象外事業の点検・評価結果概要	41
4	学識経験者の知見の活用対象外事業の点検・評価結果詳細	42
IV	前年度の評価結果への対応状況	52

I 点検・評価の目的

平成 19 年 6 月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部が改正され、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育委員会自らが点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

また、「点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」とされています。

教育委員会が行う点検・評価（以下「点検・評価」といいます。）は、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、区民への説明責任を果たすとともに、効果的な教育行政の推進に資することを目的として実施しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検・評価の実施方法

1 点検・評価の対象事業

令和5年度（令和4年度の点検・評価）では、いたばし学び支援プラン2025掲載事業（次ページから6ページまでの一覧表参照）のうち、「保幼小接続・小中一貫教育の推進」に関連する事業（「保幼小の円滑な接続」「小中一貫教育の推進」「魅力ある学校づくりの推進」）を点検・評価対象事業として実施しています。

板橋区の教育振興施策体系について

板橋区は「板橋区教育大綱」のもと、板橋区における教育振興施策に関する基本的な計画として「板橋区教育ビジョン」を策定しています。また、「板橋区教育ビジョン」が示す「めざすべき将来像」と「基本的方向性」に向けた取組を具現化するためのアクションプログラムが「いたばし学び支援プラン」です。

① 板橋区教育大綱

「郷土愛を育む」を事業の根底に据え、“学びのまち”「教育の板橋」を実現するための5つの方向性を打ち出しています。区長部局と教育委員会の密接な連携のもと、子どもたちがいきいきと学び、区民があたたかい気持ちで支え合う元気なまちづくりに取り組んでいます。

② 板橋区教育ビジョン

教育振興基本計画（教育基本法第17条第2項）として「板橋区教育ビジョン」を策定し、中長期的な板橋区の教育の方向性を示しています。

③ いたばし学び支援プラン

「板橋区教育ビジョン」のアクションプランとして、「いたばし学び支援プラン」を策定し、これに基づき教育施策を推進しています。

○計画期間

	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
①	板橋区教育大綱									
②	板橋区教育ビジョン2025									
③	いたばし学び支援プラン 2018		いたばし学び支援プラン 2021			いたばし学び支援プラン 2025				

いたばし学び支援プラン 2025 重点施策及びその実現のための個別事業

● 柱事業

柱1：保幼小接続・小中一貫教育の推進

柱2：板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進

柱3：学校における働き方改革

柱4：誰一人取り残さないための居場所づくり

基本的方向性	個別事業
これからの社会を生き抜く力の育成	重点施策1 確かな学力の定着・向上
	(1) 確かな学力を育てる授業づくりと学習環境の確保 ○ 教科等指導専門官の活用 ● 板橋区立学校学級安定化対策事業の実施（柱4） ○ ICT環境の整備・活用
	(2) 読み解く力の育成 ○読み解く力の育成を通じた学力向上
	(3) 図書館を活用した学校の読書活動の充実 ○学校等所管の充実 ●区立図書館と学校との連携強化（柱4）
	(4) 英語力の向上 ○英語教育の充実
	(5) プログラミング的思考の育成 ○プログラミング教育の推進 ○ロボットプログラミング教室の実施
	重点施策2 豊かな人間性の育成
	(1) キャリア教育の充実 ○キャリアパスポートを核としたキャリア教育の充実
	(2) 各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組 ●各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組（柱4）
	(3) 環境教育の推進 ○「板橋区環境教育推進プラン2025」に基づく環境教育の推進
	重点施策3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進
	(1) オリンピック・パラリンピック教育の推進 ○「もてなしの心」促進事業及びレガシー事業の推進・拡充 ○豊かなスポーツライフ実現に向けた行動体力・防衛体力の向上

基本的方向性	個別事業
子どもの学びを保障する教育環境の整備	重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備
	(1) 特別支援教育の充実 <input type="radio"/> 特別支援学級の設置 <input type="radio"/> 特別支援教育に関する理解啓発 <input type="radio"/> 特別支援学級・特別支援教室等の専門性向上
	(2) 不登校対策の推進 <input checked="" type="radio"/> 不登校改善重点校事業の実施（柱4） <input checked="" type="radio"/> 板橋フレンドセンターの充実（柱4）
	(3) 中高生勉強会「学びi（あい）プレイス」の推進 <input checked="" type="radio"/> 中高生勉強会「学びi（あい）プレイス」の推進（柱4）
	(4) 外国籍の子どもへの対応 <input type="radio"/> 日本語の能力が十分でない児童生徒への対応
	(5) 学校における働き方改革 <input checked="" type="radio"/> 学校における働き方改革の推進（柱3）
	重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現
	(1) 保幼小の円滑な接続 <input checked="" type="radio"/> 幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）（柱1） <input checked="" type="radio"/> 私立幼稚園との連携による幼小接続の推進（柱1） <input checked="" type="radio"/> 保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）（柱1） (2) 小中一貫教育の推進 <input checked="" type="radio"/> 小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（iカリキュラム）（柱1） <input checked="" type="radio"/> 小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）（柱1） <input checked="" type="radio"/> カリキュラムマネジメントの推進（STEAM教育の充実、SDGs教育の推進）（柱1）

基本的方向性	個別事業
子どもの学びを保障する教育環境の整備	重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備
	<p>(1) 魅力ある学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進(柱1) ● 学校の改築(柱1) ○ 学校の改修 ○ 学校施設の整備 ○ 学校施設のバリアフリー化 ○ 学校施設の照明のLED化 ○ 給食用設備・備品の更新
	<p>(2) 自分を守り、相手を大切にす教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育の推進 ○ 「スマートフォン・携帯電話等情報端末使用ルール」リーフレットの活用
地域と共に学び合う教育の推進	<p>(3) 安心・安全な放課後の居場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 放課後対策事業「あいキッズ」の推進(柱4)
	重点施策7 地域による学び支援活動の促進
	<p>(1) 地域人材による学校支援と参加の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 板橋区コミュニティ・スクール(iCS)の推進(柱2)
	<p>(2) 子どもたちの健全育成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 青少年健全育成事業の推進
	重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実
すべての方向性に共通する事業	<p>(1) 世代を超えた「学びの循環」に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中高生・若者支援の拡充と活性化(柱4)
	<p>(2) 中央図書館の事業拡大と「絵本のまち板橋」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生涯を通じた読書活動の支援(柱4) ○ 「絵本のまち板橋」の推進 ○ 板橋区立図書館における電子図書館の推進
	<p>(3) 板橋区の歴史・産業・文化の発信による新たな魅力・価値の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 板橋区史跡公園(仮称)の整備 ○ 旧粕谷家住宅の公開
	重点施策9 家庭における教育力向上への支援
	<p>(1) 家庭教育支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭教育支援チームの拡充
	<p>(1) 区民が身近に感じる教育委員会の実現</p>

令和5年度（令和4年度分）「教育委員会が行う点検・評価」対象事業

事業番号	重点施策	事業名	知見の活用
1	重点施策5	幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）	○
2	重点施策5	私立幼稚園との連携による幼小接続の推進	○
3	重点施策5	保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）	○
4	重点施策5	小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（iカリキュラム）	○
5	重点施策5	小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）	○
6	重点施策5	カリキュラムマネジメントの推進（STEAM教育の充実、SDGs教育の推進）	○
7	重点施策6	「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進	○
8	重点施策6	学校の改築	○
9	重点施策6	学校の改修	—
10	重点施策6	学校施設の整備	—
11	重点施策6	学校施設のバリアフリー化	—
12	重点施策6	学校施設の照明のLED化	—
13	重点施策6	給食用設備・備品の更新	—

学識経験者の知見の活用対象事業	8事業
学識経験者の知見の活用対象外事業	5事業
点検・評価対象事業合計	13事業

2 学識経験者の知見の活用

点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項）。これは、点検・評価の客観性を確保するためのものですが、板橋区では、教育委員会による評価の実施後に学識経験者の意見を聴取する機会を設け、対象事業の改善・向上にいかすことにしています。

令和5年度（令和4年度分）では、点検・評価対象事業のうち、「保幼小接続・小中一貫教育の推進」に関連する柱事業について、学識経験者からのヒアリング等を経て、意見・助言を聴取しています。

（1）学識経験者の知見の活用を図るテーマ

保幼小接続・小中一貫教育の推進（8事業）

（2）学識経験者

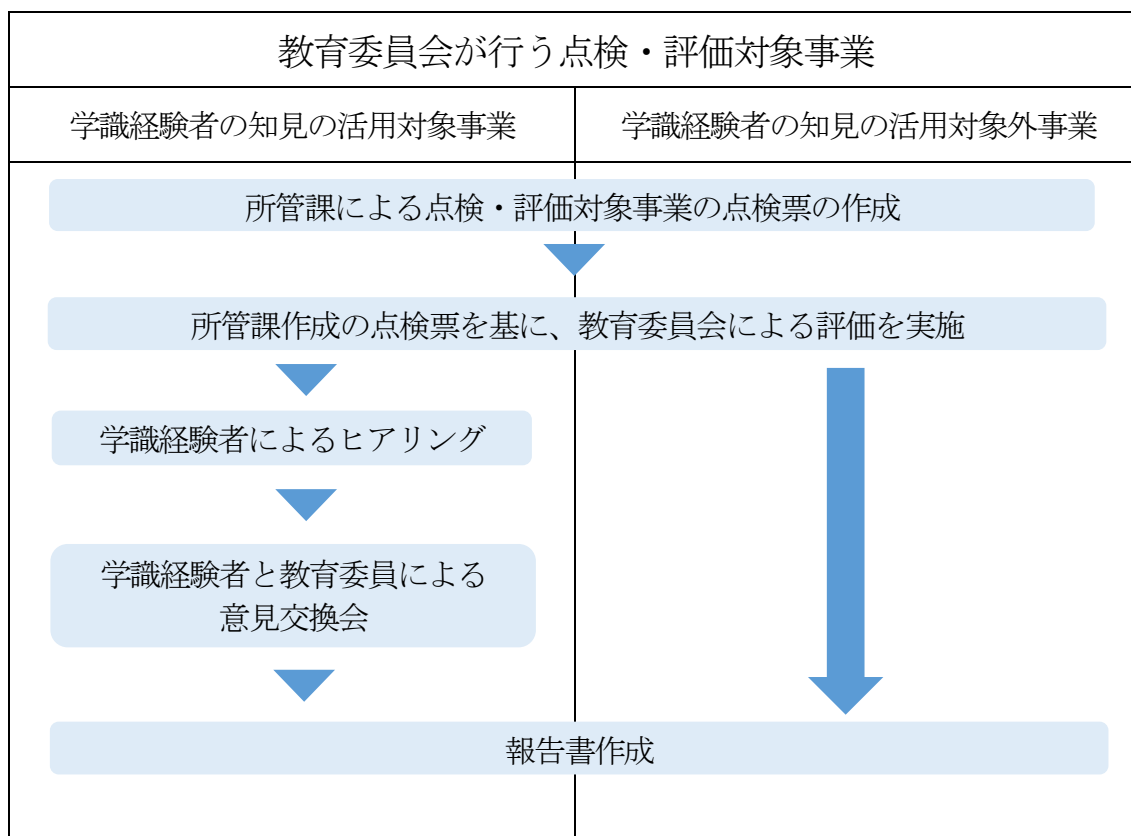
松波 紀幸氏（帝京大学准教授）

佐野 亮子氏（東京学芸大学非常勤講師）

（3）学識経験者の知見の活用対象事業

事業番号	重点施策	事業名
1	重点施策5	幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）
2	重点施策5	私立幼稚園との連携による幼小接続の推進
3	重点施策5	保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）
4	重点施策5	小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（iカリキュラム）
5	重点施策5	小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）
6	重点施策5	カリキュラムマネジメントの推進（STEAM教育の充実、SDGs教育の推進）
7	重点施策6	「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進
8	重点施策6	学校の改築

3 点検・評価実施の流れ



(1) 所管課による点検・評価対象事業の点検票の作成

各事業の所管課において、事業の進捗状況や事業ごとに設定した目標に対する到達度、実績等に照らした点検票を作成しています。

(2) 教育委員会による評価

教育長及び教育委員（4名）が、所管課作成の点検票を踏まえ、対象事業について評価を行います。

(3) 学識経験者によるヒアリング

学識経験者の知見の活用対象事業について学識経験者からのヒアリングを経て、意見・助言を聴取しています。

(4) 学識経験者と教育委員による意見交換会

対象事業について、学識経験者と意見交換会を実施することで、今後の施策・事業の取組に関連した知見を教育委員会全体で深めています。

(5) 報告書作成

報告書を作成し、区議会への報告や区民へ点検・評価の結果を公表します。

4 評価評語及び方向性

板橋区教育委員会の点検・評価では、所管課による総括及び教育委員会評価において、共通の「評価評語」により評価を実施しています。

「評価評語」は、各事業の目標に対する到達度や進捗状況を示しています。これらを踏まえ、各事業の事業手法や目標値・指標等について検討したうえで、今後の進め方を「方向性」として示しています。

評価 評語	順調	目標に向け順調に進捗しており、目標達成が見込める
	概ね順調	目標に向け進捗しており、目標達成が期待できる
	停滞	目標に対して進展していない
	達成	既に目標を達成している

方向性	工夫して継続
	事業の転換
	事業手法の見直し
	目標値・指標の見直し
	事業の廃止

Ⅲ 点検・評価の結果

1 学識経験者の知見の活用対象事業の点検・評価結果概要

(1) 教育委員会評価一覧

番号	事業	評価標語	方向性	ページ
1	幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）	概ね順調	工夫して 継続	14
2	私立幼稚園との連携による幼小接続の推進	概ね順調	事業手法の 見直し	16
3	保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）	概ね順調	工夫して 継続	18
4	小中一貫教育の推進（「板橋の i(あい)カリキュラム」の作成・実践（iカリキュラム）	概ね順調	工夫して 継続	20
5	小中一貫教育の推進（「板橋の i(あい)カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）	概ね順調	工夫して 継続	22
6	カリキュラムマネジメントの推進（STEAM 教育の充実、SDGs 教育の推進）	概ね順調	工夫して 継続	24
7	「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進	概ね順調	工夫して 継続	26
8	学校の改築	概ね順調	工夫して 継続	28

(2) 学識経験者の提言

就学前とその後の9年間を見通したカリキュラムを検討してきたことについて評価いただいた。一方、就学前教育と小学校教育の違いを教員レベルで共有することの重要性や、カリキュラムの意味を理解したうえで、豊かな実践づくり、創造的な教育活動の展開、保護者へのカリキュラムの丁寧な説明が求められることを助言いただいた。

また、魅力ある学校づくりについて、ハード・ソフトの両面で丁寧に進め、中学校校舎の改築で教科センター方式を導入して成果を出していることを評価いただいた。一方、改築時の初志が風化しないように、改築前の地域や学校とのやりとりから改築後ある程度軌道に乗るまでを、しっかりと支える人的環境への配慮や、改築時の考え方を引き継ぎ、改築した学校を使いこなしていけるシステム構築の重要性についてご指摘いただいた。

(3) 学識経験者と教育委員の意見交換会

保幼小の円滑な接続においては、幼稚園と小・中学校のカリキュラムや子どもの見かた、接し方の違いを職員レベルで互いに理解することの重要性や保幼小の円滑な接続をさらに意識した低学年のカリキュラムの検討等について議論された。

また、小中一貫教育の推進については、板橋授業スタンダードを大事にしつつも、主体的・対話的で深い学びを充実させていくため、課題選択や自由進度といった様々な学習形態を意図的に盛り込んだ学びの必要性や学力向上における初年次教育の重要性、現職の教員と子どもの統計教育の重要性等について意見が出た。

さらに、魅力ある学校づくりの推進については、非常に丁寧に議論を重ねながら改築が進められていることやその改築に向けた関係者の思いを伝えていくことの重要性について意見が交わされた。また、学校教育の劇的な変化が予測される中で、改築しやすい、柔軟性が高い建築といった考え方や教員の働き方改革を意識した執務環境の検討等の意見交換がなされた。

(4) まとめ

今後は、学識経験者の提言をいかし、保幼小接続・小中一貫教育の推進し、質の高い教育環境の整備を実現すべく、より一層の事業改善を図りながら、教育行政を進めていく。

2 学識経験者の知見の活用対象事業の点検・評価結果詳細

事業番号 1	学務課
	幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）

事業概要

5歳後半以降の幼児に対して、小学校の生活や学びにつながるよう工夫されたアプローチカリキュラムを作成し、公私立幼稚園・公私立保育所に示すことで、小学校への円滑な接続に向けた教育を行う。

アプローチカリキュラムとは

5歳児後半の小学校へ進学を意識した教育の内容を編成したカリキュラムです。小学校生活の基礎となる力を身に付け、安心して小学校へ入学し、学習できるように、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域を中心に、遊びを通して体験から学べるようにしたり、1日の流れを子どもの生活リズムに合わせて学べるようにしたりしています。

区立高島幼稚園では、例えば、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることをめざして、5歳児クラスでは、自分なりに工夫やこだわりをもって割りピン人形を丁寧に作る活動などに取り組んでいます。

また、小学校見学で一年生に算数ブロックの使い方や鉛筆の持ち方などを教えてもらうなど、小学生と実際に交流しながら学校生活を経験し、就学への喜びや期待を持てるように働きかける活動を行っています。



いたばしスタートカリキュラムパンフレットより「幼年期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	高島幼稚園と高島第二小学校との交流	回	9	9	100%
②	アプローチカリキュラムの実践状況把握	回	1	1	100%
③	私立幼稚園・公私立保育園への周知	回	2	1	50%

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部計画通りに進捗しなかったものがあるが、アプローチカリキュラムの実践及び周知について、一定の結果を得ることができた。今後は、保育園への周知や、新たに認識した課題へのより効果的な取組の検討により、アプローチカリキュラムのさらなる推進を見込む。			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○アプローチカリキュラムは、幼児教育と小学校以降の教育の連続性・一貫性を強化するもので、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有化が、新しい保育の専門職概念をもった保育者を養成し、子どもの自立心や協同性、思考力や表現力などの個別最適化が期待できる。</p> <p>○文部科学省からも幼保小の架け橋プログラム（※）が出され、幼児教育と小学校教育の接続の重要性が問われている。区立高島幼稚園での実践や高島第二小学校との交流については前向きで評価できる。</p> <p>○アプローチカリキュラムは、概要の周知に留まっているため、今後は幼稚園、小学校の教員の交流を通して、より効果的な内容を周知していく必要がある。5歳児の集団的遊びの意義や重要性を事務局サイドが現場と検討し、小学校と交流が進んでいない私立幼稚園や保育園へさらに啓発していきたい。</p> <p>○アプローチカリキュラムは、小学校入学後に実施されるスタートカリキュラムとの整合性や効果検証など課題があるため、引き続き連携を強化し、私立保育園も含めた関係機関との情報共有を進めていく。</p>			

※幼保小の架け橋プログラム：

子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すもの。文部科学省では、令和4年度から3か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進していくこととしている。

事業概要

すべての子どもたちが円滑に小学校教育に適応していけるよう、私立幼稚園と小学校との連携・接続を強化している。

また、区立幼稚園と私立幼稚園との交流会を実施するなど、交流・連携を深めることで、区内幼稚園全体で質の高い幼児教育を推進している。

中根橋小学校と近隣幼稚園・保育園で交流会を実施

中根橋小学校では、1年生の児童と幼稚園、保育園の年長の子どもとの幼保小交流会を実施しました。

交流会では小学1年生が、ペアの園児と手をつないで学校探検、折り紙やぬり絵などの遊びや園児にランドセルを背負わせる小学生体験、最後には全員で「猛獣狩りゲーム」をするなど、楽しい時間を過ごしました。

園児をリードした1年生にとっても、達成感に満ちた経験となりました。これからも子どもたちの温かい交流が続くよう支援をしていきます。



体育館にて園児と児童が交流している様子

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	高島幼稚園と私立幼稚園との交流	回	1	1	100%
②	私立幼稚園長会におけるアプローチカリキュラムの周知	回	1	1	100%

所管課総括

評価評語	順調	方向性	事業手法の見直し
<p>事業の進捗については、概ね計画通りに進捗しているが、「幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）」と事業の目的を同じくすることは否めず、評価に係る実績の内容も類似する状況となっている。</p> <p>別事業として進捗管理するのではなく、アプローチカリキュラムを活用した保幼小接続の推進として、一体的に進捗管理することを検討する。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	事業手法の見直し
<p>○区立幼稚園は「学びのエリア」を通じて区立小・中学校と連携していることが多いが、私立幼稚園は各園の建学の精神に基づく教育を行っていることから、様々な連携によって互いの長所や課題を把握し、補い合う連携を図っていく。</p> <p>○各小学校の学びのエリア内の私立幼稚園との交流などにはまだ消極的な部分も見られるため、幼保小の架け橋プログラムを契機にさらに積極的な展開ができるようにしていきたい。</p> <p>○私立幼稚園側の要望も受け止めながら、「幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）」と事業の統合など集中的な事業実施を検討していく。</p> <p>○区立幼稚園と私立幼稚園の相互訪問、地域行事や福祉施設訪問への合同参加などによる体験の共有が園児と教員のコミュニケーション能力や協調性の向上が期待できる。</p>			

事業番号 3	指導室
	保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）

事業概要

幼児教育と小学校教育をつなぐため、子どもたちが小学校入学当初、学校生活に円滑に適応していくことを目的に活動・体験を取り入れた授業、分かりやすく学びやすい環境づくりなどの研究の成果を「いたばしスタートカリキュラム」としてまとめている。

各区立小学校におけるスタートカリキュラムの取組を継続し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続をめざしている。

スタートカリキュラムとは

小学校に入学した児童が、幼稚園・保育園・子ども園等における、遊びや生活を通じた育ちと学びを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を作り出していくための小学校入門期カリキュラムです。入学から第一学年の7月ごろまで、10分から15分の短い時間の活用・具体的な活動が伴う学習活動を取り入れた授業や、児童が安心感をもち、人間関係が広がり、学習のきっかけが生まれるような環境づくりを進めています。

スタートカリキュラム		4月第1週 目標 担任や友達と仲良くなり、学校生活に希望をもつ。				
○日(月)		○日(火)	○日(水)	○日(木)	○日(金)	
行事	日時程 始業式 入学式	日時程 安全指導 初コース別下校	計測	音楽朝会 対面式	日時程 1年生始業開始	
朝		朝の支度の仕方を6年生と一緒に学ぶ	体育着に着替える	準備後整理 対面式	朝の支度の仕方を6年生と一緒に学ぶ	
1		行事 (なかよしタイム) ・朝の会 (朝) ・ゲーチャキパーで何つくろう ・読み聞かせ ・じゃんけん列車	行事 計測 (身長・体重) 行事 (なかよしタイム) ・朝の会 ・すきなものをあそびゲーム	行事 (なかよしタイム) ・朝の会 ・どんどんハイタッチ ・じゃんけんチャンピオン ・読み聞かせ	行事 (なかよしタイム) ・朝の会 ・ハンカチ落とし ・フルーツバスケット ・手遊び歌	
2		行事 (なかよしタイム) ・先生質問タイム ・自己紹介ゲーム 行事 体験着に着替えてみよう (計測にそなえ)	行事 (なかよしタイム) ・歌(校歌や知っている歌など) ・名前覚えゲーム(ヘア・組)	行事 (なかよしタイム) ・名前を伝えて握手大会 ・じゃんけん列車 ・手遊び歌	行事 (わくわくタイム) ・学校探検 ・どこに行きたい? ・学校の生き物見つけ (校庭で、生き物探しをする)	
中休み						
3	行事 入学式	生活 コース別(赤・青・緑)の確認 帰る約束 (下校の並び方・歩道の歩き方) 帰りの会 ・さようならのあいさつ	生活 (わくわくタイム) ・学校の中を見に行こう(校内)	生活 (わくわくタイム) ・校庭や屋上などを見に行こう	生活 (わくわくタイム) ・学校探検 見つけた物や人をカードに書いて伝え合う	
4	行事 今日から1年生 ・担任の自己紹介 ・学校への密着付け ・座席、靴箱を覚える ・保護者に向けての話	生活 下校 ・コース別に整理して下校	生活 コース別(赤・青・緑)の確認 帰る約束 (下校の並び方・歩道の歩き方) 帰りの会 ・さようならのあいさつ	生活 (わくわくタイム) ・校庭で遊んでみよう ・春の自然に触れる 帰りの会 ・さようならのあいさつ	生活 楽しい給食にしよう ・当番仕事内容分担表 ・配膳の仕方 ・食べる時の注意 ・片付け方	
給食	給食なし	給食なし	給食なし	給食なし	給食開始	
昼休み		コース別下校	コース別下校	コース別下校	コース別下校	

いたばしスタートカリキュラムパンフレットより「スタートカリキュラムの例」

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	スタートカリキュラムの教育課程への位置付け	回	51	51	100%
②	意見交流を通じた効果検証	回	1	1	100%
③	年間2回の研修を実施	回	2	1	50%

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>各学校の教育課程にスタートカリキュラムを位置付け、実施することができた。</p> <p>保幼小連携研修での講話や情報共有を踏まえたアンケートでは、概ね肯定的な回答となっていた。</p> <p>各学校においてスタートカリキュラムが着実に実践され、また研修等の機会を通して改善が図られていると考える。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○保幼小接続を意識した取組は、子どもたちがよりスムーズに学びの環境を移行するために重要であり、各学校の教育課程にスタートカリキュラムを位置付け、実施できたことは評価できる。</p> <p>○スタートカリキュラムを教育課程に位置付けるだけでなく、その効果測定のための指標を明らかにして実践していく必要がある。</p> <p>○スタートカリキュラムでは、幼児期に遊びを通して育まれてきたことが、小学校入学当初の学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導計画や弾力的な時間割の設定などの指導の工夫が検討されているが、各校で実践状況にばらつきがあるため、工夫して継続する必要がある。</p> <p>○スタートカリキュラムの実践事例が共有化されず、よりよいカリキュラムや活動が広がっていない実態があるため、生活科におけるスタートカリキュラムの実践事例集を作成し、各学校に配布するなど周知方法の工夫が必要である。</p> <p>○大単元構想という合科的な指導方法や健康教育などについての実質化に際し、ロールモデルなどが十分に見えていない部分があり、工夫して継続する必要がある。</p> <p>○スタートカリキュラムが着実に実践されるために、効果的な時期に保幼小連携研修を実施することを検討していく。</p>			

事業概要

板橋区の重点的な教育課題である「読み解く力の育成」「環境教育」「キャリア教育」「郷土愛の育成」について、義務教育9年間を通じた指導計画を作成している。

社会の変化に合わせて、それぞれの指導計画を見直し、加筆・修正を加えながら、その指導計画を「板橋のiカリキュラム」として区立小・中学校全教員で共有することで、義務教育9年間で意識した小中一貫教育を推進している。

環境教育の取組

区では、全国に先駆けて緑のカーテンに取り組んできました環境教育をさらに発展・展開するため、ESD（※）の考え方を重視し、区が独自に開発した保幼小中一貫環境教育カリキュラムに基づいて、保幼小中一貫型の環境学習に取り組んでいます。

緑小学校では、緑豊かな環境を生かし、地域のボランティアの方々に協力をいただきながら、環境教育に取り組んでいます。竹林を生かした学習やしいたけ栽培学習の活動を通して、年間を通じた自然の再生サイクルを学ぶとともに環境を守る意識や態度を育んだり、竹や木の枝などを使ってやじるべえやペン立て、箸をつくる活動、バケツ稲づくりの後に藁縄を通して、持続可能なライフスタイルを学んだりしています。

また、生物が自然な状態で生息する空間であるビオトープを通して、生態系について年間を通して観察活動を行っています。

このような取組が認められ、2022年にユネスコスクールに加盟しています。



しいたけ栽培の様子



ビオトープを観察する様子

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	環境教育及びキャリア教育の全体計画の作成	校園	75	75	100%
②	iカリキュラムの教育課程への位置付け	校園	75	75	100%

※ESD（Education for Sustainable Development）：持続可能な開発のための教育

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>iカリキュラムの教育課程への位置付け及び、補助資料となる環境教育、キャリア教育の全体計画の作成、実施について全学校園で実践することができた。</p> <p>優良事例の共有や、学校間の交流等により、義務教育9年間を意識した指導、それによる学力向上の取組を推進していく。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○小中一貫教育の視点から、学びのエリア内のカリキュラムマネジメントについても更なる充実を図っていきたい。</p> <p>○「小中高一貫」といった視点から「自らの将来目標」を初等中等教育で見だし、興味関心に基づいた学びの姿勢を身に付けることも重要であるため、他地域の教育ロールモデルなどを参考に、iCSなどと連携してより多くの企業や大学研究機関との連携を強化しながら、体験学習も含めたより実践的な教育モデルを検討していく。</p> <p>○「読み解く力」の育成については、区内小中学校の意識の高まりを感じる。教員が「教える」授業から、児童生徒が「教科書等のテキストから学び取る」授業への転換をさらに図っていく。</p> <p>○環境教育やキャリア教育は、SDGsを一層意識した単元計画や活動の推進、学校間の交流や優良事例共有などを通じて、より良い教育環境を整えていきたい。</p> <p>○環境教育及びキャリア教育の指導計画や補助資料の作成にとどまらず、活用状況の確認や児童生徒への効果を検証しながら事業展開していきたい。</p>			

小中一貫教育の推進（「板橋の i（あい）カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）

事業概要

板橋の i カリキュラムの実践にあたり、「郷土愛の育成の取組—自立・貢献・共生・創造— いたばしを語れる子に」リーフレットを作成し、区立小・中学校全教員に配付しています。作成したリーフレットを基に、郷土愛「板橋を語れる子」の育成に取り組んでいる。

郷土愛

板橋区では、児童・生徒が日本人はもちろんのこと、世界の人々に対して「いたばし」を語れる子になってほしいとの願いから、郷土愛育成の取組を進めています。

■取組の一例

- 赤塚・徳丸地域において、旧正月にその年の五穀豊穡と子孫繁栄を祈願し神に奉納するお祭り「田遊び」について学び、授業で考えたことや感想を発表することで、板橋区の魅力に気付く。
- 「ふれあい農園会給食」を知る活動を通して、自分たちの生活と地域の人々（農園会）を関連付けて考え、地域の人々が自分たちの生活をよくしていることに気付く。
- 各国や板橋区の SDGs に関する取組について調べ、自分たちができることについて考え、持続可能な社会の実現のためには一人一人の行動と協力が必要であることを理解する。



郷土愛リーフレット

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	「これからの板橋を語る」カリキュラム作成	学校数	74	74	100%
②	郷土愛育成の教育課程への反映	学校数	74	74	100%

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>板橋のiカリキュラムを作成したことで、総合的な学習の時間等を活用した「これからの板橋を語る」子どもの育成に向けた指針を示すことができた。</p> <p>今後は、各校の教育課程との関係を鑑み、どのように「これからの板橋を語る」場を作るかを考えていく。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○令和4年度末にiカリキュラムの全景が示されたこと、小中一貫教育の視点から、中学校9年生が「これからの板橋」を語る子にゴールを据えていることは評価できる。そのプロセスとしてどのようなカリキュラムを組み、どのような発表の場を設えるか、今後の課題である。</p> <p>○「これからのいたばしを語る」場を生徒会交流会等で実施したり、教育課程届に郷土愛について記載するだけでは不足している。どのように活用され、児童生徒にどのような学びがあったのかの検証が必要である。</p> <p>○「これからの板橋を語る」場を、各校の文化発表会などを活用して、地域や保護者とも共有することを検討していく。</p> <p>○iカリキュラム（郷土愛の育成）実施を通して櫻井徳太郎賞や図書館を使った調べる学習コンクールなどに積極的に参加するなど学びの成果を発表する場を検討していく。</p>			

事業番号	指導室
6	カリキュラム・マネジメントの推進（STEAM 教育の充実、SDGs 教育の推進）

事業概要

これからの学校には、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育成することが求められている。

板橋区では、求められる資質・能力を育成するため、総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメントを推進し、総合的な学習の時間の質的改善を図っている。

カリキュラム・マネジメントとは

各教科、道徳、総合的な学習、特別活動（部活動など）などについての目標や教育の内容を編制した計画を教育課程といいます。

カリキュラム・マネジメントを通して、学校を卒業した後も見通し、育成をめざす資質・能力をしっかりと見据え、教科横断的な視点で教育課程を編成し、質の向上を図ります。

板橋区では、未来を担う人に必要とされる資質・能力を身に付けるために、義務教育 9 年間を通した指導計画である「板橋の i（あい）カリキュラム」を作成し、カリキュラムマネジメントを推進しています。

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	総合的な学習の時間に関わる検討会の実施	校	74	74	100%
②	各校の総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し	校	74	74	100%

※教育課程：各教科、道徳、総合的な学習、特別活動（部活動など）などについて、目標や教育の内容を編制した計画

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>教務主任研修、教育課程の編成を通して、総合的な学習の時間に関わる検討会の実施及び各校の総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを実施することができた。</p> <p>今後、学校訪問や教務主任研修及び探究的な学びづくり研修等の機会を通して各校の総合的な学習の時間がより充実するようカリキュラムマネジメントを推進していく。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○これからの学校に求められる資質・能力を育成するための核となる総合的な学習の時間の充実を図るため、各校で探究的な学びなどのキーワードを意識した年間指導計画の見直しを図り、ロールモデルを共有するなど着実に進展していることは評価できる。</p> <p>○総合的な学習の時間を活用して、他教科との関連を図った指導計画を作成したり、キャリア教育の一環として地元企業の協力を得て成果物を作成したりしている学校が増えてきている。優良事例や学校間の交流を通して「総合的な学習の時間」の可能性を共有し、各校でのより充実した実施をめざしていく。</p> <p>○未来社会に対する「リスクアセスメント」と「リスクマネジメント」をESDの観点、TechnologyやEngineeringの観点から学ばせ、論理的思考を身に付けることも重要である。STEAM教育を充実させる意味合いを説明できる企画・計画を検討していく。</p> <p>○全校園で実施している緑のカーテンは、今後も本区の伝統的なカリキュラムマネジメントとして大切にしていきたい。</p>			

事業概要

「いたばし魅力ある学校づくりプラン」前期計画に基づき、学校施設の老朽化と教育機能の向上に対応するための施設整備計画、集団としての教育機能が最大限に発揮される学校規模をめざす適正規模・適正配置計画を一体的に推進している。

併せて、小中一貫教育の推進や持続可能な学校施設マネジメントの視点を踏まえた後期計画を検討する。

「いたばし魅力ある学校づくりプラン」とは

未来を担う子どもたちがいきいきと学び、発達段階に応じた「生きる力」を身につけるためには、安心・安全で充実した学校施設機能と、集団としての教育機能が最大限に発揮される学校規模を整え、豊かな社会性を育む教育環境を整備していくことが重要です。

そのため、いたばし魅力ある学校づくりプランでは、教育環境の整備について、学校施設・設備の老朽化といったハード面での対応にとどまらず、学校規模や立地状況、新たな教育課題に対応できる環境整備も含めた学校施設の改築・改修と、学校適正規模・適正配置を連動させた多面的な検討を行っています。



板橋第十小学校 正門



上板橋第二中学校 外観

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	協議会等の開催	回	—	19	—
②	審議会等の開催	回	—	12	—
③	情報提供（説明会等）	回	—	157	—

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>いたばし魅力ある学校づくりプラン前期計画第2期の志村小・志村四中及び上板一中は、学校・地域関係代表者で構成する検討会で順調に検討を進めた。</p> <p>引き続き学校施設整備や通学路について検討を行う。</p> <p>第3期の板橋一中・板橋五中は、エリア内の大規模集合住宅建設情報を基に影響を受ける学校も含めて、向原小とともに庁内検討を進めた。</p> <p>また、いたばし魅力ある学校づくり審議会及び同小委員会を開催し、持続可能な教育環境整備と教育の充実のため、区が今後取るべき方向性の基本的な考え方等について、審議を行った。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○いたばし魅力ある学校づくりプラン前期計画第2期の志村小・志村四中の小中一貫型学校や上板一中は、学校・地域関係代表者で構成する検討会を複数回実施し、多様な意見があるなかで、丁寧な対応を心がけながら順調に検討を進めることができている。</p> <p>○第3期の板橋一中、板橋五中、板橋六小は、学区域内の大規模集合住宅建設情報を基に慎重に検討を進めているが、大変困難な計画策定である。情報収集と課題の整理を行いながら、よりよい計画策定ができるよう進めていく。</p> <p>○地域の大規模集合住宅建設情報を考慮した対応方針の検討についても、適切な教育環境の確保に向けた対応を進めていく。</p> <p>○持続可能な教育環境整備と教育の充実のため、引き続き学校施設整備や通学路について検討を進めていく。</p>			

事業概要

児童・生徒の安全確保と学校施設の機能向上を図り、ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ&インクルージョンに配慮した良好な教育環境の整備を進めている。

また、次世代の学校づくりのテーマとして、「誰一人取り残すことなく、すべての子どもが将来への夢に向かい、自ら伸び、育つ教育」が実現できる「多様性に対応した持続可能な学校施設」をめざしている。

学校の改築

現在、志村小学校・志村第四中学校の小中一貫型学校設置、また上板橋第一中学校改築について、保護者や地域の皆様に対して説明会を開催しながら、設計の精度を高めています。



志村小学校・志村第四中学校の小中一貫型学校イメージ



上板橋第一中学校改築イメージ

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	基本構想・基本計画策定	校	2	2	100%
②	基本設計	—	実施	実施	—
③	学識経験者打合せ	—	継続	継続	—

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>完成後の校舎が少しでも多くの方に理解いただけるよう、近隣住民への配慮やインクルーシブ教育の視点を取り入れた計画案を様々検討した。今後も教育環境等への変化に柔軟に対応できる学校施設として学校現場の知見や学識経験者の意見を取り入れながら「多様性に対応した持続可能な学校施設」となるよう工夫し、設計を進めていく。</p>			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○検討委員会や児童・生徒のワークショップなどを経て基本構想・基本計画を策定したり、保護者や地域住民に向けた説明会を複数回開催したりするなど丁寧に進めることができている点が評価できる。</p> <p>○児童・生徒の安全確保と学校施設の機能向上を図り、ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ&インクルージョンに配慮し、柔軟に変化に対応できる良好な教育環境の整備を心がけていく。</p> <p>○小中一貫型学校の改築は、先進事例校の設え等を十分に参考にしつつ、本区の特徴をソフト部分と組み合わせながら進めていく。</p> <p>○電気・水道・通信関連の維持管理費の高騰への配慮は重要である。ZEB化の視点はもとより、通信インフラの確保や開かれた学校としての施設のあり方にも配慮し、改築を進めていく。</p> <p>○2050年以降の学校のあり方を見据え、教育現場の意見や知見を十分に取り入れながら、現在の姿にとらわれず、多様性に富んだ持続可能な学校施設の改築プランを未来志向で検討していく。</p>			

(1) 保幼小の円滑な接続

幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）について

- ・ 意味理解を前提にしたカリキュラムの実施と検討
- ・ 子ども家庭部との連携による保育園への周知ならびに教育委員会主導による小学校への仲介についての検討

幼児が小学校へ円滑に就学できるようにアプローチカリキュラムを作成したことは評価できる。また、作成に携わった関係学校園ならびに教職員には敬意を表したい。なお、こうしたカリキュラムは、作成に携わった学校園、教職員の理解は促進される。

一方、それ以外の教職員については必ずしもそうでない場合がある。そこで、今後もアプローチカリキュラムに限ったことではないが、制度や施策等も含めて、そもそもどのような意味があり形づくられているのかについて、関係者が議論する中で見直しをしてほしい。アプローチカリキュラムで言えば、カリキュラムを固定的にとらえず、それぞれの学校・園の環境は異なることから、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を共通目標にしつつ、幼児らの小学校への円滑な接続になるよう継続的に検討する中で運用することを望む。

次に周知についてである。昨年度末に開催された板橋区私立幼稚園長会において各私立幼稚園に周知し、高島幼稚園で策定したアプローチカリキュラムの活用や小学校との交流について情報共有したと報告があった。まずは、公立幼稚園内に留めず、実践内容について私立幼稚園に提供したことは評価したい。

ここで、この周知に対する私立幼稚園の受け止めがどのようなものであったかについて担当課に確認したところ、距離や立地により交流しやすさが異なるため比較的小学校に近い幼稚園は連携が実施されている。一方で、距離が離れている場合や教員の異動に伴い交流が途切れるなど、交流が必ずしも十分でない園もある。幼稚園から学校への働きかけには難しい側面もあることから、教育委員会でうまく繋いで欲しいという意見があったとの回答であった。

そこで、「令和4年度(令和3年度分)「教育委員会が行う点検・評価」報告書 p.41」において、「②放課後対策事業「あいキッズ」の推進」の中で、「教育委員会と保育部門」により「あいキッズ」と幼稚園や保育園の仲介を依頼したことと同様の対応を依頼したい。すなわち、アプローチカリキュラムの推進にあっても、教育委員会が子ども家庭部と連携する中で、私立幼稚園、公私立保育園と小学校をつないでいけるよう仲介について検討してほしい。

また、「公私立保育園への周知については、新型コロナウイルス感染症の影響により、調整を十分に行えず、周知するに至らなかった」とあった。令和5年度については、既に子ども家庭部と連携し、保育園に対しても具体的な実践内容の周知を図っていく計画と聞くが、区内就学予定児童の半数近くが保育園に在籍していることから保育園に対する周知についても滞りなく進めて欲しい。

またさらに、今回担当課より説明を受けたアプローチカリキュラムの内容の具体については、園児と児童の交流が中心であった。そこで、教員や保育士の交流により、互いの教育や保育に関する実践について理解を深める場があってもよいかもしれない。アプローチカリキュラムもその後のスタートカリキュラムも子どもたちの円滑な接続がテーマの中心である。学校園双方が、互いの活動を見合うことで、教職員が「顔の

見える関係」となりカリキュラムの改善を促進しやすくなるのではなか。例えば、小学校教員で言えば、初任者研修等法定研修の場を利用して、小学校の教員が幼稚園の教育活動の意味について参観を通じて理解する場面を設ける。その中には、降園時に幼稚園教員が保護者にその日の園児の様子を丁寧に保護者に伝える様子などもある。これにより、小学校の教員が就学前教育と小学校教育の違いを理解する。こんな土壌を形成した上で意味理解や検討を進めてはどうか。

○参考

[「令和4年度（令和3年度分）『教育委員会が行う点検・評価』報告書」掲載HP](#)



私立幼稚園との連携による幼少接続の推進

・ 事業の一体的管理の支持

小学校に就学する児童らは、様々な場における就学前教育を受けている。事業概要にもあるように、私立幼稚園と小学校との連携・接続を強化することや公立・私立幼稚園の交流・連携を深めていくことは、幼児が小学校教育に適応しやすい環境を整える第一歩であり、評価できる。本事業は、改善の方向性にもあるように、（１）と目的及び求める効果が同じとあることから、一体的に進捗管理を進めていくことを支持したい。

保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）

- ・ 意味理解を前提にしたカリキュラムの実施と検討
- ・ 保護者等への丁寧な説明と評価方法の改善

一つの小学校を見ても、就学してくる幼児らが受けている就学前教育は様々である。学習者のことを考えた際には、先にも述べた「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を共通目標とし、アプローチカリキュラムにより育てられた子どもたちが、区立小学校において円滑に学校生活に適用できるように配慮されていることは評価できる。

また、入学後においてもスタートカリキュラムの中で児童らが学校生活に円滑に適応していけるように配慮している点も評価したい。またさらに、作成したカリキュラムの実効性を担保するために、教育委員会の指導・助言により各学校の教育課程に位置付けさせたことについても評価したい。

一方、先のアプローチカリキュラムと同様に、作成当事者らがやがては担当から離れていくことは容易に想像できる。この時に、次なる担当者が、このカリキュラムはどのような目的のもとに運用されているのかについて再確認するとともに、その目的に沿って見直しを図ってほしい。さて、その見直しの際に評価が必要となる。意見交流を通じた効果検証を実施したということであるが、こうした参加教員による意見交流だけでなく、それ以外の効果検証についても検討してはどうか。例えば、兄や姉のいる児童の保護者に、以前の教育と比較してどのような違いが見られるかなど聞き取り調査をすることも考えられる。こうした保護者を巻き込むことは、現在の学校に不足している側面かもしれない。まずは保護者に学校がどのような意図でスタートカリキュラムを実施しているのか、説明することから始めてはどうか。リーフレットを配布して終わりにするなど形式的な対応に留まることは避けたい。

(2) 小中一貫教育の推進

小中一貫教育の推進（「板橋の i（あい）カリキュラム」の作成・実践（i カリキュラム）

- ・ 計画の次のステップとしての実施状況の把握
- ・ 学習者の追跡調査等も含めた効果測定方法の検討

小中一貫教育を推進するために義務教育9年間を通した指導計画を見直し、加筆・修正を加えていることは評価できる。作成した計画について絶えず見直しを図る姿勢は今後も継続したい。また、「事業指標」に「i カリキュラムの教育課程への位置付け」を掲げ、各学校で確実に計画されるよう、教育委員会として指導・助言している点についても評価したい。

一方で、実施についての把握は必ずしも十分でないようである。よって、次のステップとして実施状況調査をするなどその把握はあって良いのではないかと。また、「所管課総括」にある「義務教育9年間を意識した指導、それによる学力向上の取組を推進」とあるが、この学力向上は結果的にどのような根拠を用いて評価していくのか、具体的な指標を定めた上で確認することも検討されたい。

小中一貫教育の推進（「板橋の i（あい）カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）

- ・ 意味理解を前提にしたカリキュラムの実施と検討
- ・ 9年間を見通した軸の共通理解と教員及び学習者が創造的に学習活動に取り組むことができる柔軟性の担保

これまで、板橋の i カリキュラムの実践にあたり、令和元（2019）年度から3年間、指導計画の作成委員会を設置し、「社会科」、「生活・総合的な学習の時間」、「道徳科」の3部会を設け、小中一貫教育を意識する中で、9年間の系統立てた指導計画の作成を行ってきたと聞く。その集大成として9年生による「いたばしを語る場」について、学校負担を考慮しつつ、実行しようとしている点については評価したい。

なお、学校におけるカリキュラムについて考えた際に、本来「生活・総合的な学習の時間」は経験単元が基本である。よって「郷土愛」を軸に据えた際に、学習者の問題意識をどのように醸成していくかなどが鍵となろう。そこで、このあたりをどのように工夫していくのか、十分でない場合にはさらに改善・充実を図ることも考えられる。また、先のアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムと同様、一度形作られたカリキュラムを固定化せず、学習者が問題意識をもてるよう、授業者である教師が創造的に指導できるよう柔軟であってほしい。

カリキュラムマネジメントの推進（STEAM教育の充実、SDGs教育の推進）

- ・ 資質・能力に関する9年間の系統性の確認と教員及び学習者が創造的に学習活動に取り組むことができる柔軟性の担保

板橋区として多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育成するため、総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメントを推進する方向性については評価できる。また、エリアの共通項などを探る検討会や、年間指導計画の見直しなどの改善の具体についても評価したい。

一方で、資質・能力をメインで検討しているものが、実際の検討の中でどのような内容を取り扱うかという議論に陥らないように留意したい。取り扱う内容は例示として確認はあったとしても、育てたい能力部分について9年間の系統を意識する、こちらを大切にしてほしい。特に、どのような内容、素材を授業で取り扱うかは教員の裁量、創造性に委ねたい。また、学校現場では、地域の求めなどに応じて授業内容を検討する場合がある。しかしながら、この時の取捨選択は、その学校が、学びのエリアが9年間を見通して育成したい資質・能力にあったものなのか、最適であるかの視点に立って行いたい。またさらに、経験单元であるからこそ必然的に探究的な学びとなる。学び手の子どもたちの問題意識よりも大人の都合が優先されぬように留意したい。

(3) 魅力ある学校づくりの推進

「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進

- ・ 9年間の学びを支えるための関係者からの丁寧な聞き取りの継続
- ・ 安全・安心のためのきめ細かな修繕等の対応

「いたばし魅力ある学校づくりプラン」前期計画に基づき、学校施設の老朽化対策や適正規模・適正配置計画が一体的に推進されている点について評価できる。また、小中一貫型学校設置に向けての検討会、いたばし魅力ある学校づくり審議会・同小委員会なども丁寧に進められている。様々な角度から関係者の意見を集約し、形づくりの過程において、事務局は苦勞も多いと考えるが、引き続きこの丁寧さを大切にしてほしい。

なお、こうした大きな枠組みと同時に、各学校では修繕等必要な箇所が多数散在していると考えられる。この対応については、学校予算で賄えるものは学校で対応し、そうでないものは区教育委員会として対応すると担当課より回答があった。児童・生徒が安心して通える学習環境を整える立場からも、各学校においてはこれまでの定期的な安全点検だけでなく、保護者や地域から寄せられた声などについても積極的に情報収集し対応してほしい。また、区教育委員会にあっては、学校から寄せられた情報や対応状況などについて見える化を図るなど、区民が安心感を得られるような工夫についても検討してはどうか。

学校の改築

- ・ 9年間の学びを見通した慎重かつ着実な設計
- ・ 事業の方向性に関する多角的な検討の継続

児童・生徒の安全確保と学校施設の機能向上を図り良好な教育環境の整備を進めていることは評価できる。保護者や地域住民を対象にした説明会の中で出た意見については、プランの更新を繰り返す中で、設計の精度を高めており、こうした姿勢も評価したい。

なお、ZEB化については、担当課の説明の中で、防災機能の側面も考慮しながら検討が進められているとのことであった。こうした多角的な視点での検討はこれからも大切にして欲しい。

むすびに

今年度の評価対象は、ハード面としての施設、ソフト面としてのカリキュラムが中心であった。施設については、児童・生徒の安全安心を第一に学区域なども含めて丁寧な検討が重ねられている。また、板橋区としてどのような児童・生徒を育てていきたいのか、どのような教育を前提にハードを構築するのか、そうした視点でも審議会等で検討されている。これを支えるソフト面についても、就学前ならびにその後の9年間を見通したカリキュラムについて検討をしてきたことは評価したい。なお、最終的には、学習者にとってどのような意味があるのか、制度設計の段階もさることながら、その後も意味を理解した上で事業が展開されることを期待する。資質・能力の共通理解のもと、各学校園においては、創造的な教育等活動が展開されることを切に願う。

(1) 保幼小の円滑な接続

5歳児後半の幼児に対して小学校での生活や学びに繋がる「アプローチカリキュラム」を、そして、小学校入学当初に学校生活に適応できるよう「スタートカリキュラム」を作成し、その実施をもって、子どもに寄り添った幼小接続をねらう教育施策の工夫は高く評価できる。

「アプローチカリキュラム」では計9回の交流が実施され、小学校の校庭で5歳児と1年生児童が「鬼ごっこ」などの遊びを一緒に楽しんだり、5歳児が学校給食を体験するなど、多様な交流活動が行われた。その中で幼児の成長がみられたことは、幼児期教育充実の成果ととらえられるだろう。それゆえ、アプローチカリキュラムの推進は今後も期待される場所である。

カリキュラムのブラッシュアップについては、前年度の活動（鬼ごっこ・給食体験など）の繰り返しや同じやり方での継続に安住することなく、交流活動のよりよい在り方を探る方向で、幼稚園と小学校が協働し、多様な実践を考案し実施を試みるのが肝要と考える。

指導室の資料『いたばしスタートカリキュラム』によれば、「各園・小学校では、いろいろな交流活動が行われて」おり、これは、アプローチカリキュラムと小学校低学年のカリキュラムをつなぐ一例とみることができる。このような実質的レベルでのカリキュラム接続や、保育・教育活動の一体的取り組みの工夫を期待したい。

一方、小学校の「スタートカリキュラム」も緒に就いたところであり、今後の成果が期待される場所である。幼児期の育ちと学びを生かした学習活動については、保幼小接続研修において情報交流しながら、様々な工夫や更新を行ってほしい。

小学校教育ではあまり周知されていないが、幼児教育では「環境構成」の理論と実践が重視されている。「環境による教育」の考え方を教科学習にも取り入れて、入門期から教科の学びに向かう力を育む取り組みを工夫したい。

「幼稚園の文化と小学校の文化を教員レベルで共有する」ことが重要であり、子ども同士の交流活動は効果的な一例にすぎない。他方では、幼稚園の「あたりまえ」が小学校では「ありえない」ことであったり、その逆も存在する。また、子どもの育ちのみとり方や、指導（保育）案の表現形式にも違いがみられる。そうした双方の特徴（違い）を知る機会が増えることは、今のそれぞれの取り組みを見直すきっかけにもなる。保幼小連携においては、情報の交流・共有に基づいたカリキュラムの充実を目指していきたい。

(2) 小中一貫教育の推進

2020年度から本格スタートとなった小中一貫教育では、「読み解く力」の育成をねらった授業改善「板橋区 授業スタンダード」の徹底が行われている。この「教師が『教える』授業から、児童生徒が『教科書等のテキストから学び取る』授業」への転換は、子どもがめあてをもって自分の考えを表現する機会を増やすことになり、その成果が全国学力・学習状況調査の結果にも反映されたと分析できたことは高く評価できる。

こうした成果の背景には、子どもたちの「読み解く力」の実態を把握（テスト実施）し、テスト結果を踏まえて全学年全教科等の指導を研究、その研究成果を「板橋 i カリキュラム」としてまとめ、小中学校9年間を通した指導が行われている。各学校で

の「板橋 i カリキュラム」の活用においては、希望する学校(毎年 30~40 校)には指導主事が説明に出向く仕組みがつくられていることも、着実な実施につながっていると考えられる。

「板橋 i カリキュラム」は、「読み解く力の育成」のほかに「環境教育」、「キャリア教育」、「郷土愛の育成」について義務教育 9 年間を通した指導計画を作成しており、具体的な指導事例を提示したり、副読本やリーフレットを作成・配布している。各学校ではこれらをいかに利活用し、豊かな実践をつくっていくのか、教師の創造性が求められるだろう。

また、「板橋 i カリキュラム」と STEAM 教育の充実や SDGs 教育の推進は、重なるところが大きいと考える。個々のプログラム(教育課題)ととらえるのではなく、さらには他教科との連携も視野にいれて、各学校で独自の実践が生まれてくることを期待したい。

(3) 魅力ある学校づくりの推進

学校施設の老朽化対策や、少子化に伴う学校の適正規模・適正配置は、どの地域でも課題となっている。生命の安全を守る対応は急務であるが、適正規模・適正配置による学校の統廃合は課題解決に時間がかかる場合が多いと考えられる。

他県では、小規模校ながら伝統的・歴史的に優れた教育実践が行われている学校もあり、それが統廃合によって途絶えてしまうのではと危惧する声も聞く。一つの統廃合によって、地域が大きく変わる可能性もある。「推進」によってこれまで培われてきた教育的な資産が損なわれることのないように配慮していきたい。

学校の改築については、特に中学校校舎の改築で教科センター方式を導入して成果を出しているという話をきいている。全国的に見ても、中学校の教科センター方式が成功している事例は少ないので、板橋区の取り組みは高く評価できる。

成果の要因の一つに、学校づくりのプロセスが非常に丁寧であることが挙げられる。先の赤塚第二中学校の改築の際に「学校改築ドキュメント」としてまとめたものを上梓していたが、その巻頭の「新しい学校づくりの鍵は、教育論と施設論の統合にあり」は名言である。

一つひとつの学校をハード・ソフトの両面で丁寧につくっていくという板橋区のポリシーが今後もひき続き実行されていくことを期待したい。

学校の改築には長い時間と多くの費用を要する。改築前の地域や学校とのやりとりから、改築後ある程度軌道に乗るまでをしっかりと支える人的環境への配慮も重要だろう。

たとえば改築後 10 年も経つと、行政も学校も人がいれかわって初志が風化し「○○なコンセプトで建てたようだが、私たちにはよくわからず、使いにくい」といった話を聞くことがある。何を目指してつくられたのか、その考え方を引き継ぎ、どのように使われる(教育実践が行われる)のがベストなのか、使いこなしていけるシステムを指導室とも連携して講じていきたい。

学識経験者と教育委員との意見交換会 意見一覧

(1) 保幼小の円滑な接続

- 幼稚園と小・中学校のカリキュラムでは、幼稚園は活動によって時間が決まっている（time on task）、小・中学校は時間によって活動が決まっている（task on time）という違いがある。この違いを十分に理解せずに、幼稚園から小学校に入学してすぐ、小・中学校のカリキュラムを実践されてしまうと子どもたちの興味関心を失ってしまう。こういったことを、関係する教員たちが理解し合うということが非常に重要だと思う。
- 幼稚園の教員は子どもたち一人一人を見ているが、小学校の教員はどちらかというとマスで見るとい違いがある。幼稚園の教員と小学校の教員が、お互いの保育や教育をみあう、話し合うという時間が取れるようになるとよいと思う。板橋区は区立幼稚園が1園しかないため、私立との繋がりが重要になってくるため、ぜひ、意識して進めていければと思う。
- 現場でスタートカリキュラムの実践をみていると、子どもの実態によって、ついていくことが難しい場合もある。担任の教員に加え、支援の教員も入っているが、さらにボランティアの手があると、子どもたちにとってスムーズにそのカリキュラムに沿った時間を過ごすことができる印象がある。
- 区内の小学校では、近隣の幼稚園に運動会等で校庭を貸出が行われ、さらに、児童が幼稚園に行き、園児と交流をできる機会を積極的に設ける形で連携している。その際、小学校の教員がまず園に出向き、幼稚園の教員と意見交換をしながら内容を決め、それを持ち帰って、学級でどういった交流ができるか、どのような役目を担えるのかといった話し合いができていると聞いている。これからの活動は、そういったところに期待したい。
- 文化が違う環境で育ってきた子どもたちを受け入れる小学校一年生の担任が、非常に大変だということが、この事業をきちんと進めることで、教員が少しは楽になってくる側面もあるのではと思う。
- 幼稚園の文化と小学校の文化を教員レベルで共有するために、30分でも1時間でも登園の様子をみると、ヒントを得られるかもしれない。また、幼稚園と学校の教員が1週間入れかわってしまうぐらいのことを積み重ねていくと、文化の違いを肌で感じ、理解が進むのかもしれないと思う。
- スタートカリキュラムで、幼児教育の子どもを育ちを見ながら、それを引き受けて、小学校がどういうふうに行っていくのかをカリキュラムのレベルで考える時代に入ってきた。低学年のカリキュラムは、教育方法のレベルでもう少し大胆に考えられてもいいのではないかと感じている。
- 主体的な学習が問われる時代に入ったことを考えると、少なくとも低学年の段階では、「環境構成」を意識しながら、小学校の教員も授業をやっていく必要があるのではないかとと思う。

(2) 小中一貫教育の推進

- 幼稚園から小学校、小学校から中学校と、その時々でステージが上がるという考え方をすると、初年次教育が非常に重要だと思う。ある学校でどの段階で学力があがるかを調査した結果、中学1年、高校1年の1学期で、新たな学びのステージに興味・関心を持った子は、学力を上げているが、あまり興味・関心を持てなかった子は、維持、あるいは下降をたどるというデータが出ている。小中一貫でも、7年生の中1ギャップという言い方ではなく、新たな学びの中に興味・関心を持てるかといった授業の進め方が非常に重要なのではないかと感じている。
- 小学校から中学校への接続について、小学校で英語教育を重点的に行うようになってきたが、中学校から少し読むだけではなく、書けるようにしてほしいといった要望が出たりと、貴重な意見が交わされていると耳にしたりもしているので、授業スタンダードという共通の学び方を通じて情報共有されていければと期待している。
- iカリキュラムにおける学校間の情報共有では、実際に環境教育を中心として進めている学校は、教員も子どもも大変意識も高いと思うが、すぐ隣にある学校がせっかく側にそういったモデルがあるにもかかわらず、その取組が共有されていない現状がある。環境教育を重点的に取り組む学校だけではなく、近隣の小学校や中学校でもそういう目の前にある生きた教材と一緒に共有していくことができればよい。
- 郷土愛は、本当に板橋を愛するというのを、学習者に考えてもらう問題意識が大事で、うまくサポートしていく教員の力量も問われると思う。ただ「愛」がつくと、とても難しく、いかに地元板橋、郷土板橋に興味を持ってもらうのかを、焦らず、時間をかけてやっていくことが必要と思う。板橋は愛すべき存在だと、実感してもらうための工夫がこれから求められると思う。
- 小学校の算数も、これからは説明する算数、どうしてその解に至ったかというプロセスを説明できる思考力が非常に重要になってきている。また、数学は文字式となり、抽象的な思考になっていく。そのあたりの変化を小学校の教員も理解して、数学へ移行する算数の学びがどういうことなのかと考えていく必要がある。思考力を引き出す授業は授業スタンダードとまた違う角度で考えていく必要があると思う。
- STEAM教育の充実が叫ばれる中、説明する算数・数学の重要性を肌で感じている。大学では、経済学部や商学部でも数学は必須で、文系・理系に関わらず必要になってきている。特に統計は、文系でも身に付けておいたほうがよいと経済学部や商学部の教員も口をそろえて言っている。このあたりを小・中学校の教員と議論して、理解してもらえれば、ご家庭の理解も進むのではないかと思う。
- 統計教育は、子どもたちに教えていくことも大切であるが、現職の教員も身につけると、色々なデータを読み解いて学校経営等に生かしていけると思う。
- 授業スタンダードで1時間をどのようにやりくりしていくのかは重要であるが、もう少し大きな桁で、単元丸ごと子どもと一緒に作ってみる、子どもに丸々任せてみるといった様々な学習形態を、カリキュラムの中にこれから意図的に盛り込んでいくようなことが必要になってくると感じている。

- 自由進度の授業について、プールの授業に行った際、それぞれの子どもに合わせて指導した方が、きっと子どもたちにとってはよいのだと感じた。昔のように笛一本で水泳指導するという時代ではなくなっており、教員も保護者も発想を転換していかなければいけないのではないかと思う。

(3) 魅力ある学校づくりの推進

- 老朽化した施設は、どこに重点を置き、改築をするのかがポイントになると思う。当時に使われていた材質や材料を見直すことで、効率よく改修をし、大事な校舎を長く使うことも考えつつ、新しい考え方を導入することが必要だと思う。新しい建物では、特にトイレがジェンダーの多様性等に配慮して、全く新しい考え方で建築されている。そういった事例をモデルにしながら、既存の施設をどのようにしていくかが、これからの課題になると思う。
- 障害者差別解消法が来年度本格施行され、確実に対応が求められる中、トイレのみならず、バリアフリー化等も非常に重要になってくると思う。そういった中で、地域性にもよるが、様々なケアを要する児童に対応するといったことも含めて、魅力ある学校をこれからつくる必要があり、そこを教員がうまく運用していくところまでが、一つの成功への道筋だと思う。設計の際、そのあたりも含めて地域に開かれた学校がテーマになると思う。
- 現在、作ろうとしている学校は、あくまでも今の教育にふさわしい施設になっている。学校教育の中身も方法もこれから劇的に変わっていく中で、これからの学校建築で求められるのは、改築しやすい建築だと思う。フレキシブルに変えていけるような仕組みを入れていくことが、将来的にはうまくいくのではないかと思う。
- 働き方改革を進める中では、教員が働きやすい職場につくりかえていくことが、これからの学校施設には、大切な要素であると思う。従来の学校予算は、子どもに使うことが中心で、執務環境の改善は後回しにされてきた。改築した上板橋第二中学校では、教員にゆとりのある職員室を取り入れており、そういった発想も大事にしていきたいと思う。
- 日本の小学校の教員は、朝、子どもが来てから帰るまで職員室でお茶を飲むことがほとんどない。しかし、欧米に行くと、必ずティータイムがあり、朝学校に来て昼食までの間に必ず1回、昼食は丸々自分のランチタイムとしてゆったりと時間を取っている。そこでは、教員同士で行われる色々な情報交流が、会議の時に行われるものよりも、実は重要だったりするという話がある。平時に、質の高い情報交流ができるようにするための場づくりが、職員室の中でもっと積極的に試みられてもいいのではないかと思う。
- 上板橋第二中学校の落成式は、生徒が全部仕切っていたが、その中で生徒たちが、学校ができるまでの経緯をしっかり受けとめ、関わったすべての方に感謝をしながら、大切に使うっていくと意思を表明してくれた。学校づくりにあっては、そういった思いをきちんと伝えていくことが、大切に使い続けていくことに繋がるのだろうと思う。

3 学識経験者の知見の活用対象外事業の点検・評価結果概要

令和5年度（令和4年度分）「教育委員会が行う点検・評価」における学識経験者の知見の活用対象外事業は5事業である。

点検・評価の結果、該当する5事業の目標に対する到達度や進捗状況を示す評価評語は、「順調」が4事業、「概ね順調」が1事業となっている。

「順調」と評価された「学校施設の整備」「給食用設備・備品の更新」では、必要な改修・更新について計画通りに実施できたことが評価されている。

一方、各事業の事業手法や目標値・指標等の検討をしたうえで、今後の進め方を示す「方向性」は、「工夫して継続」が5事業となっている。「学校の改修」については、学校の構造躯体に対し、水回りの老朽化や通信インフラの陳腐化が早い段階で発生することが課題として挙げられている。

また、「学校施設のバリアフリー化」では、車椅子利用者トイレの設置について、物理的な制限により設置が困難な学校が多い状況ではあるが、合理的な整備方法を検討しながら、設置数を増やし、学校施設のバリアフリー化の充実を図ることが述べられている。

本点検・評価を踏まえ、さらなる魅力ある学校づくりの推進に向けて、取り組んでいく。

教育委員会評価一覧

番号	事業	評価標語	方向性
9	学校の改修	順調	工夫して継続
10	学校施設の整備	順調	工夫して継続
11	学校施設のバリアフリー化	概ね順調	工夫して継続
12	学校施設の照明のLED化	順調	工夫して継続
13	給食用設備・備品の更新	順調	工夫して継続

4 学識経験者の知見の活用対象外事業の点検・評価結果詳細

事業番号	新しい学校づくり課
9	学校の改修

事業概要

老朽化が進んだ学校施設を計画的に改修し、児童・生徒の安全確保と学校施設の機能向上、施設の長寿命化を図り、ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ&インクルージョンに配慮した良好な教育環境を整備している。

また、現在ある校舎を最大限活用するため、建物を日射や風雨から守り耐久性を確保する外壁等改修工事を行っている。

学校内のユニバーサルデザインを紹介

上板橋第二中学校では、ユニバーサルデザインに配慮し、自分の居場所を認識しやすいグラフィックの工夫など、分かりやすいピクト表示や英語併記としたサインにしています。特に上階トイレでは、LGBT に配慮して、色による区別ではなく、大きなサインにて分かりやすく、だれでもトイレと一体的に表現をすることで、心理的に使いにくく感じられていた、だれでもトイレも使いやすい雰囲気としています。また、各教科の配色も色弱等視覚に障害がある方でも間違えない様に同系色を同じ階に使用せず、また方角も分けるようにするなど、多様性に配慮したサインとしています。



上板橋第二中学校のトイレサイン



上板橋第二中学校のフロアサイン

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	志村六小実施設計等	校	1	1	100%
②	赤塚小基本構想・基本計画	校	1	1	100%
③	外壁改修・屋上防水（設計3校・工事8校）	校	11	11	100%
④	維持改修・復旧改修設計	校	2	2	100%

所管課総括

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
目標の達成に向け順調に進捗し、事業継続により目標達成が見込める。			

教育委員会評価

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
<p>○部分改修をしていく長寿命化改修校については、安全に十分配慮していく。</p> <p>○学校の改築改修は、構造躯体に対して水回りの老朽化や通信インフラの陳腐化が早い段階で発生することが課題である。</p> <p>○建物を日射や風雨から守るという視点では、「緑のカーテン」のより積極的な活用などを検討する。</p> <p>○今後も、柔軟に対応できる学校施設として、学校現場の知見や学識経験者の意見を取り入れ、「多様性に対応した持続可能な学校施設」を目指して、改修工事を進めていく。</p>			

事業概要

更新時期を迎えた学校施設の設備などについて、改築や長寿命化改修を実施するまでの間、施設機能の維持・向上を図ることにより、ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ&インクルージョンに配慮した良好な教育環境の整備を進めている。

校庭改修、散水設備更新、校舎トイレ改修などを実施している。

学校施設のダイバーシティ&インクルージョン

教科センター方式（※）を実践する上板橋第二中学校では、施設の中央部に、学校図書館とパソコン室の機能を有する「メディアセンター」を設定しています。ゆとりあるスペースを確保し、図書館の本で「調べ学習」や、パソコンやタブレットPCを利用したグループ学習等にもフレキシブルに対応できる環境にしています。

児童が思い思いに本に親しみ、また、交流できる場として多様な居場所づくりに取り組んでいます。

※教科センター方式：教科指導の充実、主体的な学習態度の育成をねらいとして、児童・生徒が授業ごとに専用の教室へ移動して学ぶ方式。



上板橋第二中学校のメディアセンター

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	散水設備	校	2	2	100%
②	校舎トイレ	校	13	12	92%
③	定期特別改修	校	11	11	100%

所管課総括

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
目標の達成に向け順調に進捗し、事業継続により目標達成が見込める。			

教育委員会評価

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
<p>○子ども達の安全確保のための校庭改修、散水設備更新、高機能化を中心とした校舎トイレ改修などを計画的に進めており、高く評価できる。</p> <p>○児童・生徒のために安全・安心な居場所としての学校という観点から、トイレを含め快適な空間になるよう引き続き教育環境の整備を充実させていく。</p>			

事業概要

文部科省は、学校施設におけるバリアフリー化などの推進方策について、令和7年度末まで緊急かつ集中的に整備を行うことを整備目標としている。

板橋区では、バリアフリー化などの改修未実施校が37校（令和3年度末時点）あり、災害時に避難所となる学校施設は地域防災の支援にも繋がることから、計画的に「スロープなどによる段差解消」及び「車いす使用者用トイレの整備」を進めている。

学校のバリアフリー化の紹介

学校施設は、障害のある児童生徒等が、支障なく安心して学校生活を送ることができるようにする必要があります。また、災害時の避難所など地域コミュニティの拠点としての役割も果たすことから、バリアフリー化は重要です。

令和4年度は「段差解消、昇降口扉改修等」を10校、「車いす利用者に配慮したトイレ設置」を1校実施しました。



板橋第十小学校の段差のない昇降口



上板橋第二中学校の車いす利用者に配慮したトイレ

事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	段差解消、昇降口扉改修等	校	10	10	100%
②	車いす使用者用トイレ設置	校	1	1	100%

所管課総括

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
目標の達成に向け順調に進捗し、事業継続により目標達成が見込める。			

教育委員会評価

評価評語	概ね順調	方向性	工夫して継続
<p>○2024年4月1日に改正障害者差別解消法が施行され、民間事業者の合理的配慮提供が法的義務化される。文部科学省も学校施設のバリアフリー化を令和7年度末までに完了する整備目標を示し対応を求めている。</p> <p>○車椅子使用者トイレについて物理的な制限により設置が難しい学校が多い状況ではあるが、改修経費を考慮しつつ、合理的な整備方法を検討しながら、今後も、少しでも多くの学校に設置できるよう検討していく。</p>			

事業概要

学校運営に欠かせない照明を適切かつ計画的に改修することにより、蛍光灯照明が使用できない事態を回避し、安心・安全な教育環境を確保と、SDGs の目標達成と持続可能な社会の実現に向け、学校施設のLED化によるCO2排出量抑制と省エネルギー化を進めている。

国は2030年までの全LED化を計画しており、SDGsの推進を掲げている区としても、学校施設の体育館などのLED化を推進してきた。今後、さらなるLED化を進め、2030年までに学校施設のLED化の完了をめざしている。

学校施設のLED化率の指標

区が令和4年8月に策定したSDGs未来都市計画では、学校施設のLED化に関する指標を設定しています。

令和4年1月時点で8.2%（6校/73校）だった学校施設のLED化率を、令和6年に28.7%（21校/73校）

まで引き上げることをめざし、計画的に改修を進めています。事業に関するSDGsのロゴマーク



事業実績

	事業指標	単位	計画	実績	達成率
①	内部フェーズ1照明改修	校	10	10	100%
②	屋外グラウンド照明改修(令和4年度のみ)	校	3	3	100%
③	体育館照明改修	校	7	7	100%

所管課総括

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
目標の達成に向け順調に進捗し、事業継続により目標達成が見込める。			

教育委員会評価

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
<p>○SDGs と省エネルギー化推進に向けて、今後も 2030 年までの学校施設の LED 化完了に向け進めていく。</p> <p>○学校施設の照明 LED 化は「ゼロカーボンいたばし 2050」掲げている板橋区としても推進すべき重要事業である。</p> <p>○昨今のエネルギー価格上昇や教育 DX 推進による ICT 機器使用増に伴う電気料金の高騰が学校運営に大きな影響を与えているため、LED 化による省エネは迅速に推進する必要がある。</p>			

事業概要

老朽化が進み更新時期を迎えている区立小・中学校の給食用設備・備品を計画的に更新している。

また、学校の改築・長寿命化改修時に給食室をドライ化し、安全で衛生的な学校給食を安定的に維持できる環境の整備を進めている。

また、給食調理室にエアコンが未導入の16校に対し、令和4年度までに導入する。

給食用設備・備品の更新

老朽化が進み、更新時期を迎えている区立小・中学校の給食設備・備品の故障によるリスクを回避するため、計画的に更新しています。

令和4年度は設備改修を延べ5校、備品更新は延べ11台、エアコン導入は16校実施しました。

また、板橋第十小学校、上板橋第二中学校、舟渡小学校、紅梅小学校では、学校の改築、長寿命化改修に合わせて、給食室のドライ化を行っています。給食室のドライ化とは床に水が落ちない構造の施設・設備、機械・器具を使用し、乾いた状態で作業できるシステムです。給食室のドライ化により、衛生管理が徹底され、給食を調理する環境の安全性が飛躍的に高まり、安心・安全な給食を提供することができています。



板橋第十小学校 給食室①



板橋第十小学校 給食室②

事業実績

事業指標		単位	計画	実績	達成率
①	設備改修数	校	5	5	100%
②	備品更新数	台	11	11	100%
③	エアコン導入工事数	校	16	16	100%

所管課総括

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
給食設備・備品の更新については、学校の改築や長寿命化改修の実施予定と日常の稼働状況等を踏まえながら、更新対象校を柔軟に選定していく。			

教育委員会評価

評価評語	順調	方向性	工夫して継続
<p>○施行工期が制限される中で、契約事務の前倒しや関係部署との連携により10月中旬にすべての工事が完了できたことは評価できる。</p> <p>○給食設備・備品の更新は、学校の改築や長寿命化改修の実施予定と日常の稼働状況等を踏まえながら更新対象校を柔軟に選定していく。</p> <p>○食の安全確保は必須のため、引き続き丁寧に事業を遂行していく。</p>			

VI 前年度の評価結果への対応状況

板橋区教育委員会が前年度（令和4年度）に実施した点検・評価において、方向性が「事業手法の見直し」となった2事業について、その後の対応状況をまとめました。

【評語】

対応済	指摘事項への対応が完了した。
一部対応済	指摘事項への対応が一部完了した。または、対応に着手し取組を継続中である。
検討中	指摘事項への対応を検討している。

事業名	英語教育の充実		
方向性	事業手法の見直し	対応状況	一部対応済
令和4年度評価に対する意見	対応結果		
<p>新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも研修方法を工夫し、教職員向け研修を実施することができている。今後、より一層の指導力向上が求められるため、研修の充実を図っていく。</p>	<p>夏季休業中の2日間に渡り、中学校の全英語科教員を対象に全日の研修を行った。講師はALT派遣の委託業者とし、ALTを活用した教授法・授業方法を実際に行い、即授業に還元できる内容とした。また、一人一台端末を活用したALTの活用方法も同時に習得した。来年度以降も教員のニーズに応えながら研修内容を更新していく。</p>		
<p>一人一台端末を活用した授業は英語が最も顕著に行われている。デジタル教科書の活用や動画視聴、各国の方々となつながらインターネットの普及は英語教育の充実には欠かせないものになっている。</p>	<p>一人一台端末を用いて、デジタル教科書を利用しながら、教科書の音声を繰り返し聞くことや自身の英語発話を録音し聞き返すことで、英語らしい発音や抑揚を修正しながら学習をすることができている。また、課題の提出に関するも、書いたものを提出するだけでなく、音声や動画を課題として提出できるようにしたことで、スピーキングテストを見据えた評価材料としての活用も進んでいる。</p>		

<p>小学校 3 年生から 9 年生まで の英語教育の指導計画の作成が 必要であるため、小中一貫教育 と連携した英語教育のカリキュ ム作成を検討していく。</p>	<p>年間指導計画の作成の際に は、単元配列表を小中学校 で共有し、カリキュラムを 共通した作成し、今後共有 情報共有の一環として、 小中一貫教育の作成を図 り、連携を図っていく。</p>
<p>中学生海外派遣事業について は、オンライン実施などの可能性 について積極的に検討していく。</p>	<p>令和 4 年度の中学生海外派 遣事業については新型コロナウイルス 感染症の影響で中止 となった。 オンライン実施などの可能 性については、予算や現地校 との調整を含めて対応が難し い状況である。 今後、TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) の活用など、中学生海 外派遣事業の代替となる活動 について中学校に周知を図 っていく。</p>
<p>ALT の配置や英語 4 技能の能力 向上をめざした研究実践校の取 組は評価できるが、効果検証が 難しい、どのように分析がな されているのか、改善策の提案 がまだ出ていないのか不明である。</p>	<p>ALT の配置や研究実践校の 取組についての効果検証は、 中学校卒業段階で CEFR A1 程 度以上の英語力をもつ生徒の 割合の比較や、研究実践校と 同一の英語力アセスメントツ ールを活用した学校の 4 技能 それぞれの平均スコアの比較 で行った。 研究実践校の数値の方が高 かったことから一定の成果が 得られた。この成果をもとに、 英語版「板橋区授業スタンダ ード」を作成し、区立学校に 周知した。</p>
<p>中学校の ALT の活用について、 都立高等学校入学者選抜におけ るスピーキングテストの導入を 踏まえた検討をしていく。 また、一人一台端末を活用し、 外国人とコミュニケーションを 図る取組の検討をしていく。</p>	<p>都立高等学校入学者選抜にお けるスピーキングテストの 導入を踏まえ、中学校では希 望した学校において ALT を活 用したオンラインでのスピー キングを実施した。また、一 人一台端末を活用し、夏季休 業中に外国人とコミュニケーション を図る英語講座 (English Day) を実施した。今後は、 区内全中学校において ALT を 活用したスピーキング活動の 充実を図っていく必要がある。</p>

事業名	板橋区版「英語村」の実施		
方向性	事業手法の見直し	対応状況	検討中
令和4年度評価に対する意見		対応結果	
<p>参加した児童・生徒からの高い評価を考へても、予算化できず残念な事業である。今後は、目的や趣旨などを含め、事業内容を検討していく。</p>		<p>英語に触れる経験は、英語学習において非常に有益な体験であることは認識している。今後は同様の事業の実施を目指し手法について検討を続けていく。</p>	
<p>「英語村」事業は参加した児童・生徒からも評価が高く内容も年々改善されており、継続できないことは非常に残念である。今後は、生涯学習センター（まなぼーと）などの社会教育施設において、蓄積された実績をいかした新しい事業の構築に取り組んでいく。</p>		<p>昨年度大原生涯学習センターでは、アメリカの現地高校生とのオンライン交流会を実施し好評を得た。今後も同様の事業の実施を検討している。</p>	
<p>持続可能な事業として、新しい事業を検討する。英語に対する興味関心が高まり、英語力が向上することで、修学旅行や課外活動などの校外授業と組み合わせた事業とすることもできるのではないか。</p>		<p>校外授業としての実施については、実現性も含めて他課との連携のもと検討を進める。</p>	
<p>英語教育の充実と併せて、ALTなどが参加するVR空間に英語村を実現する「メタバース英語村」の実施やオンラインを活用した他国の児童・生徒と会話するなど、新しい事業の構築に取り組んでいく。</p>		<p>DXを活用した英語教育については、指導室をはじめ他の課とも協議を行い、実施に向けた検討を進めていく。</p>	

令和5年度（令和4年度分）
教育委員会が行う点検・評価 報告書
板橋区教育委員会事務局教育総務課
令和5年8月発行

刊行物番号
R05-62